

## 令和元年度 教育方法改善のための 自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

### 1. 学生による授業評価

#### (1) 実施状況

別紙1「令和元年度 授業評価実施状況一覧」のとおり

#### (2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・ 学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会 教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教育学部教務委員会 教育学研究科修士課程運営委員会・専門職学位課程運営委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学部教務委員会 社会情報学研究科学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（医学科学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	理工学部教務委員会 理工学府教務委員会

#### (3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・ 学生支援機構	実施科目及びアンケート項目について教養教育部会で審議のうえ、大学教育センター学部教務委員会において実施を決定し、教務システムを利用してアンケートを実施した。
教育学部 教育学研究科	Webを利用してアンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWebアンケートを実施した。
医学部 医学科	医学科の学生自治組織である学友会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対して授業アンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。
医学部 保健学科	平成26年度から本学で導入されている教務システムのアンケート機能を活用して、平成27年度からWebによるオンラインシステムで授業評価アンケートを実施している。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。

医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	Webを利用してアンケートを実施した。 授業実施中に、教員が学生にWEBアンケートへの回答を依頼した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

#### (4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・ 学生支援機構	<p><b>【結果概要】</b> 学びのリテラシー（2）において、前年度と比較し授業がアクティブラーニングであったと回答した割合が増加した（平成30年度85.3%、令和元年度90.5%）。</p> <p><b>【課題】</b> アクティブラーニングであったと回答した割合は増加したが、依然としてアクティブラーニングではなかったと回答した割合が多い科目がある。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 前年度に引き続き、授業担当教員に対し、アクティブラーニングの充実について依頼した。</p>
教育学部 教育学研究科	<p><b>【結果概要】</b> ① 学部学生の授業満足度では、9割以上の学生が肯定的な評価をしている。（「満足している」「どちらかという満足している。」）また、大学院学生の総合評価では、8割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と、肯定的な評価をしている。 ② アクティブラーニング型授業の導入率は約7割であり、それらの科目のうち「問題解決能力が身についた」と学生が回答した科目数は約4割であった。</p> <p><b>【課題】</b> ① 全体から比べると小さな割合だが、「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいる。 ② 学部においては、予習・復習をしなかったと回答した学生が約3割5分いる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 以下のような改善事例があった。 ① 課題の量を増やすことで、授業内を講義中心形式からディスカッション中心形式に変換できる可能性を探れた。 ② 90分を3つのブロックに分けた事、及び学生に大いに議論させた事で、授業に臨む学生の態度が改善された。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 平成29年度よりWebアンケートに切り替えたが、アンケートの回答率は平成30年度よりもさらに低下した。 なお、授業を四段階で評価してくださいとの項目で、前後期ともに8割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と回答しており、授業について</p>

	<p>ては総じて高い評価であった。</p> <p><b>【課題】</b> アンケート回答率の低下。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>          掲示、教務システム、授業内でのアナウンス等で学生へ周知し回答を促す。特に受講者数の多い授業を中心に、授業の最後にその場で回答させるように働きかける。さらに、個々の研究室の中でも教員から入力への依頼をする。          なお、教授会でアンケート結果について教員に周知し、各々の授業改善の参考とした。また、学部内の掲示板にアンケート結果を掲示し、学生へのフィードバックを行った。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b> アンケート結果は科目単位で集計され、今後の授業内容や実施方法の改善のために教員にフィードバックされている。</p> <p><b>【課題】</b> 病棟で行う臨床実習において課題の提出方法が煩雑になっている。個人情報保護を確保しながら提出方法について見直していく必要がある。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 前年度の課題であった、Post-CC OSCE（臨床実習終了後の実技試験）の実施日程を見直し、就職活動のシーズンと重ならないように設定した。 臨床実習における課題提出の方法について見直す。</p>
医学部 保健学科	<p><b>【結果概要】</b> 平成 26 年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で実施し、6 割程度の回答率であったが、平成 27 年度から、教務システムを活用しての Web によるオンラインシステムでの実施方法に移行したところ、回答率が低下し、平成 29 年度後期の回答率は 31.4%であった。 そのため、平成 30 年度は事務方から学生に複数回メールで連絡するとともに、各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなど保健学科全体として回答率の向上に努めたところ、平成元年度前期の回答率は 60.8%になった。</p> <p><b>【課題】</b> アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、優れているが占める率は 60.6%との結果になっており、概ね高い評価を得た。 また、「授業は学生の主体的な参加を促すものでしたか」との問いに対して、そう思うが占める率は 51.8%との結果になっており、アクティブラーニングにより教育効果の高い授業を実践する目的は達成されていると考える。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 保健学教育ワークショップ（FD）において、保健学科教員に対するアンケート調査を実施しており、保健学科教員はアンケートに回答することにより、授業評価アンケート結果を教務システムから閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果は掲示板にも掲示して一般公開していることを意識し、授業の改善に努めている。 また、アクティブラーニングに関する質問項目を入れることにより、アクティブラーニングへの教員の意識付けを再確認している。</p>

<p>医学系研究科</p>	<p><b>【結果概要】</b>  授業の全体的な評価は、前期は「非常に良い」が 72.5%、「良い」が 21.6%、後期は「非常に良い」が 62.7%、「良い」が 35.6%となっており、9割以上が肯定的な意見となっている。</p> <p><b>【課題】</b>  学生から授業の英語化を求める声が多い。英語化に係る対応を進めているが、授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にある。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  留学生が履修登録している科目については、授業のスライドを極力英語で作成していくこととし、授業以外の部分（講義連絡やガイダンス資料）についても極力英語で作成していくこととした。</p>
<p>保健学研究科</p>	<p><b>【結果概要】</b>  オムニバス形式の授業であるが、科目責任者が講義の担当をしている回に学生への回答を依頼するようにお願いした(授業最終日は、科目責任者が担当するとは限らないため)。  オムニバス形式の授業については様々な分野の専門家の講義を受け、話を聞くことができる点に意義を感じる学生がいることがわかった。</p> <p><b>【課題】</b>  オムニバス形式へ好意的な意見が多いのに対して、講義の初めでは全体の流れがつかみにくいという指摘があった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  選択形式の回答では個々人が考えていることがつかみにくいため、改善策を見出すことが難しい。そのため、より多くの自由形式の回答を増やすように学生に依頼をする。  回答率は高いため、科目担当者の実施する回で回答を依頼することを継続する。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p><b>【結果概要】</b>  中間調査を実施することにより、授業の途中で学生の意見を反映させることが可能になった。</p> <p><b>【課題】</b>  学年では高学年科目になるに従い、実施時期では前期よりも後期のほうが、回答率が低くなる傾向がある。また、授業科目によって回答率に大きな差がみられる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  授業間で回答率の差がみられることから、授業中のアナウンス及び実施時間を確保してもらえるように教務委員会を通じてより一層の周知をはかる。  学生との懇談会において、アンケート結果に対する対応事例を学生へフィードバックすることで、学生がアンケートに回答するモチベーションの維持向上をはかった。</p>

## 2. 学生との懇談会

### (1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	R 1. 11. 5	9名	17名	学長が学生から本学の教育内容等に関する意見等を聞くことにより、今後の教育方法の改善等に資するために実施
教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	R 2. 1. 31	6名	20名	学習環境、授業内容等
	院生との懇談会	R 1. 11. 27	9名	20名	カリキュラム、学習環境等
社会情報学部 社会情報学 研究科	学生と学部長との懇談会	R 1. 10. 30	11名	18名	学部長と学部学生との懇談
	学生と研究科長との懇談会	R 2. 1. 21	8名	3名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	令和元年度 第1回 医学科学友会との懇談会	R 1. 7. 30	24名	19名	授業や施設等に関して、医学科教務部会を中心とした教職員と学生との意見交換。
	令和元年度 第2回 医学科学友会との懇談会	R 2. 2. 4	23名	22名	同上
医学部 保健学科	第1回 保健学科学友会	R 1. 7. 22	30名	15名	授業・設備・環境等に係る要望に対する意見交換
	第2回 保健学科学友会	R 2. 1. 24	28名	13名	授業・設備・環境等に係る要望に対する意見交換
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	該当なし				
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会 (化学・生物化学科2年生)	R 1. 10. 3	教員 20名	163名	前期アンケート実施科目全ての集計結果に対する教員からの回答について、分野ごとのカリキュラム委員から説明し、教員と学生間で意見交換を行った。
	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会 (化学・生物化学科3年生)	R 1. 10. 1	教員 20名	172名	同上

2年生と教員との懇談会 (機械知能システム理工学科)	R 1.10. 1	教員 5名	約 115名	2年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。
3年生と教員との懇談会(機械知能システム理工学科)	R 1. 9.24	教員 4名	約 130名	2年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。
学生(2年生)との懇談会 (環境創生理工学科・環境エネルギーコース)	H31. 4.12 R 1.11.26	教員 2名	約 60名	授業アンケートに対する教員対応及び前回の懇談会で出た意見に対するコース対応の説明、及び学生と教員との意見交換。懇談会後にも懇談会の場合では言いにくい意見をアンケート形式で調査。
学生(3年生)との懇談会 (環境創生理工学科・環境エネルギーコース)	H31. 4.11 R 1.11.26	教員 2名	約 60名	授業アンケートに対する教員対応及び前回の懇談会で出た意見に対するコース対応の説明、及び学生と教員との意見交換。懇談会後にも懇談会の場合では言いにくい意見をアンケート形式で調査。
授業評価アンケート結果に基づく学生と教員との懇談会(電子情報理工学科・電気電子コース)	R 1. 3.27	教員 1名	2年生全員 3年生全員	授業全般(カリキュラムや教務システム含む)に関する意見照会(新型コロナの影響によりメール照会)
理工学府長と学生との懇談会	R 1.12.25	教員 15名	15名	理工学部・学府の教育方法に関する学生の意見聴取を主とした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p><b>【結果概要】</b> 群馬大学の魅力、入学前と入学後の印象、4年間の目標等について意見交換が行われた。</p> <p><b>【課題】</b> 外国語教育科目群の開講数と履修方法について検討が必要である。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 教養教育科目全体の開講科目数について、教育改革推進室会議で検討を行う。</p>
教育学部 教育学研究科	<p><b>【結果概要】</b> ① 設備，カリキュラム，実習等について要望があった。 ② 事前に学生に意見照会した内容を基に学生と意見交換を行った。</p> <p><b>【課題】</b> ① 学部においては，設備面，駐車場の改善を求める学生が多い。 ② 大学院においては，教職実践インターンシップの実施や設備面，駐車場の改善を求める学生が多い。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> ① 駐車場については引き続き取り締まりを行った。 ② 大学院における教職実践インターンシップにおいて，実施の目的を十分理解していない学生がいたため，丁寧に説明を行うことで対応した。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 例年，学生の参加者が少ないため，事前に掲示，教務システムでの周知，担当学生からの声掛けを行ったが，参加人数は増えなかった。</p> <p><b>【課題】</b> 学生の参加者数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> もっと早い時期から学生へ周知を行う。 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b> 授業内容の他，教室や図書館等の大学の施設や教務システムなど学生生活全般について学生の意見を聴取することができた。</p> <p><b>【課題】</b> 大学の施設について，教室の環境改善（空調，Wi-Fi），図書館の環境（空調，トイレ改修），自主学習スペースの増加等の要望があった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 医学図書館については，改修工事を進めている。 自主学習スペースの増加について検討する。</p>

<p>医学部 保健学科</p>	<p><b>【結果概要】</b>  例年、懇談会のためのアンケートでは、3年生の一部専攻が実習中であることや、専攻全員が集まる機会が少ないなどの問題から、回答の回収が難しい状況となっていた。そこで今回は試験的に、看護と作業の3年生を対象にインターネットを利用したアンケート収集を行った。結果、看護学専攻は任意回答としたことも影響して、9%ほどの回答率であったが、作業専攻では、回答を促す連絡や、学友会員から催促をしたこともあり、80%の回答率を得ることができた。</p> <p><b>【課題】</b>  回答の督促等を行うことで、回答率を上げることができた。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  回答数の確保には、ペーパーレスや負担軽減だけでなく、督促の連絡をすす等回答率が下がらないような工夫をして実施する必要がある。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p><b>【結果概要】</b>  (理工学府長と学生との懇談会)  司会はシナリオを作成し、懇談項目の所要時間を予め区切ることで、円滑な懇談の実施が可能となった。これにより、学生からの要望・不満を一方的に聴くのではなく、テーマに沿った懇談が可能となり、自由討論の中で要望を聴取することができた。</p> <p><b>【課題】</b>  (理工学府長と学生との懇談会)  英語教育の充実の必要性、入学後のコース分けに係る学生(希望のコースに行けずやる気を失った)の救済体制</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  理工学部では各学科で英語による専門科目を開講している。また、PBL形式の教養英語を2年時に開講して英語教育の充実を図っている。</p>

### 3. FD活動

#### (1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	平成30年度 群馬大学ベストティーチャー賞 公開模擬授業	R 1. 9. 5	115名	学長賞受賞者3名による公開模擬授業を実施
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第11回 全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	R 1.12.10	30名	高大接続改革（大学入試制度改革）について外部講師を招いての講演
教育学部 教育学研究科	教育学部	教育学部FD	R 1. 9.18	74名	教育の「内部質保証」にむけて
	教育学研究科	教育学研究科FD	R 2. 3.26	15名	授業実践開発コースのカリキュラムについて
	教育学部	教員間相互授業研究 Week	R 1.11.18 ～ 29	7名	授業公開の実施
	教員養成FDセンター	附属学校園・公開研究会	R 1. 5.21 外4件	55名	道徳授業ラボ 外
	教員養成FDセンター	教育実A,C,Dおよび幼稚園教育実習	R 1. 9.13 外11件	11名	教育実習の参観
	教員養成FDセンター	附属学校園における大学教員の公開授業	H31. 4.25 外10件	1名	大学教員による授業 修学旅行の体験を「紀行文」にしよう 外
	教員養成FDセンター	新任教員FD研修会	R 1. 5.13 外3件	18名	教育学部新任教員へ教育学部の歴史、特色、教育学部が抱える課題等の内容説明
	教育学部	教育学部FD	R 1. 9.18	74名	教育の「内部質保証」にむけて
社会情報学部 社会情報学 研究科	社会情報学 教育・研究センター	FD講習会	R 1. 9.25	22名	「教育の「内部質保証」に向けて」
	広報室	公開授業	R 1. 7.27	21名	ベストティーチャー賞受賞者の授業
医学部 医学科	医学科 教務部会	医学教育教授法ワークショップ	R 2. 2. 8	139名	模擬授業（授業が高評価の教員による）、特別講演（新カリキュラム、地域医療枠）

	群馬手術手技 研修センター	カダバーサー ジカルトレーニング講演会	H31. 4. 24	41名	本学に設置された 手術手技研修セン ターと臨床医学・ 研究について
	医学科 教務部会	臨床研修基幹 病院からみた OSCE	R 2. 3. 2 (延期)	—	卒後医師臨床研修 を行う病院からみ た共用試験の位置 づけと卒前卒後の シームレスな教育 について考える。 (COVID-19 感染拡 大防止のため開催 延期)
医学部 保健学科	保健学科	第1回保健 学教育ワー クショップ	R 1. 7. 31	72名	「教育の内部質保 証に向けて」をテ ーマとする学内講 師による講演
	保健学科	第2回保健 学教育ワー クショップ	R 1. 9. 25	65名	ベストティーチャ ー賞受賞者による 公開模擬授業を実 施
医学系研究科	医科学専攻教 務委員会 生命医科学専 攻教務委員会	群馬大学大学 院医学系研究 科FD	(中止)	—	大学院FD 「研究医養成」
保健学研究科	該当なし				
理工学部 理工学府	理工学部	「教育の内部 質保証に向け て」FD 講演会	R 1. 9. 13	106名	成績評価方法に関 する講演
	理工学部	アクティブラ ーニングに関 するFD	R 1. 10. 30	6名	アクティブラーニ ング導入方法など に関するワークシ ョップ
	理工学部	英語授業に関 するFD	R 1. 11. 25	7名	英語による授業方 法に関する研修会
	5大学連携教 育シンポジウ ム(理工学部)	文理横断的・ 異分野融合的 な教育につい て	R 1. 9. 20	14名	各大学の教育改革 事例紹介と質疑応 答
	理工学部	公開授業	R 1. 6. 10 ～	35名	教員相互の公開授 業(事後アンケート 回答者58名)
	理工学部	公開授業	R 1. 12. 9 ～ R 2. 1. 16	14名	教員相互の公開授 業(アンケート回 答者49名)

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p><b>【結果概要】</b>            全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、11月1日に決定された英語民間試験活用の見送り決定も踏まえ、大学入試改革について、これまでの軌跡を確認した。</p> <p><b>【課題】</b>            ベストティーチャー賞の公開模擬授業は、本学の教員は原則参加することとしているが、時間・場所の制約もあり、受講できない教員が多い。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            公開模擬授業に参加できない教員に対し、公開模擬授業の様態を録画したDVDを視聴させる代替措置を行った。</p>
教育学部 教育学研究科	<p><b>【結果概要】</b>            「教員間相互授業研究 Week」については、特定の2週間を定め、一部科目を除き、専門科目を開放し、見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的とするものである。授業を参観した教員からは新たな気づきを得ることができ、良い機会となった旨の回答を得た。            附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また、学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであった旨の回答を得た。</p> <p><b>【課題】</b>            教育学部の「教員間相互授業研究 Week」については、昨年度から新たに立ち上げた授業公開制度であるが、参加人数が7名にとどまった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            「教員間相互授業研究 Week」について、より多くの教員が参加し、授業改善に資することができるよう、更なる事前周知が望まれるため、引き続き、教務委員会を中心に対策を行う。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p><b>【結果概要】</b>            複数回開催したことにより、より多くの教員が参加し、授業評価結果のフィードバックにより、教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p> <p><b>【課題】</b>            全ての教員が参加することはできなかった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            全ての教員が参加できるよう、開催日（回数）について検討する。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b>            学生による授業評価において高評価を得た教員の模擬授業を実施した。アクティブラーニングの具体例や、ICTを用いた授業方法の工夫について他の教員に紹介することができた。            令和2年度から導入される新カリキュラム、及び地域医療枠学生に関する入学試験の変更と6年間を通じた支援について教員への周知を図った。</p> <p><b>【課題】</b></p>

	<p>実施日が限られており，診療業務等の関係で教育に関わる全教員の参加を得ることが難しい。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 今後FDの回数を増やす等して，参加の機会を多くすることが必要である。</p>
医学部 保健学科	<p><b>【結果概要】</b> 各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促すため，更なる教育の質的向上を目指し，ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。</p> <p><b>【課題】</b> 保健学教育ワークショップ（FD）の第1回の出席率は96%，第2回の出席率は87%であったが，保健学科全体としての共通理解を深めるため，全ての教員が参加できるように開催日を決める。 また，特別な理由が見受けられないにも関わらず，開始時間を大幅に過ぎてから入室する教員 がいたとの指摘があり，改善が必要な点となっている。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 今後，保健学科教育課程専門委員会で検討し，入室時間に関する注意喚起をする等の対応をしていきたい。</p>
医学系研究科	<p><b>【結果概要】</b> イギリスから講師を招聘する予定であったが，コロナウィルスの感染拡大防止のため，講師の招聘を取り止め，FDの開催を中止することとなった。</p>
理工学部 理工学府	<p><b>【結果概要】</b> 成績評価方法に関するFDは，教員会議のなかで行うことで高い参加率となった。 アクティブラーニングに関するFDは，ワークショップ形式であったため質疑応答が活発に行われ，より実践的なFDとなった。 5大学教育シンポジウムについては，2019年度は群馬大学理工学部が主管校であったため，各大学の教育方法取り組み事例紹介のセッションをFDと位置付け実施した。</p> <p><b>【課題】</b> FDが教育方法改善に実際に資するものとなっているか把握できていない。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 教育方法改善のためにどのようなFDを実施すべきかについて，アンケートなどで希望調査する（予定）。</p>

#### 4. 学生等への意見調査（在学生，卒業（修了）生，就職先及び保護者など）

##### (1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・ 学生支援機構	全学卒業時アンケート	R 1.12.24 ～ R 2. 3.31	令和2年 3月卒業者 1,182名	卒業生を対象にした，学生生活，教養教育科目等についてのアンケート調査
	全学修了時アンケート	R 1.12.24 ～ R 2. 3.31	令和2年 3月修了者 444名	修了生を対象にした，研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査
	全学学習ふりかえりアンケート	R 2. 1 ～ R 2. 3.31	学部生（卒業 年次以外） 3,843名	卒業年次以外の学部生を対象にした，1年間の学習内容についてのアンケート調査
教育学部 教育学研究科	教育実習 A 及び B に関するアンケート	R 1.11	学部3年生及 び一部4年生 225名	教育実習の充実度に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H31. 4. 5	102名	新入生と教員とで懇談を行った。
	卒業時アンケート	R 2. 1.25	96名	卒業論文発表会終了時に，学部生としての活動を総括するアンケートを実施した。
	修了時アンケート	R 2. 1.15	6名	修士論文発表会終了時に，院生としての活動を総括するアンケートを実施した。
医学部 医学科	卒業時アンケート	R 1.11. 1	6年生 118名	在学中のカリキュラム等への意見調査
医学部 保健学科	卒業時アンケート	R 2. 2. 3	110名	今後における教育・学生支援の充実のために，卒業予定者を対象に実施
医学系研究科	群馬大学全学修了時アンケート調査	R 1.12.24 ～ R 2. 3.31	医学系研究科 修了者56名	大学院での研究，カリキュラムに関するアンケート調査
保健学研究科	群馬大学全学修了時アンケート調査	R 1.12.24 ～ R 2. 3.31	保健学研究科 修了者（前期 48名，後期 6名）	大学院での研究，カリキュラムに関するアンケート調査

理工学部 理工学府	理工学部及び理工学府における卒業・修了時アンケート調査	R 2. 1. 15 ～ 3. 24	学部4年次 【回答者数 325名】	授業科目や課程に関する意見や満足度，進学先等
	令和元年度修了時アンケート調査 【理工学府博士前期（修士）課程】	R 2. 1. 6 ～ 3. 31	大学院（博士前期）2年次 （301名） 【回答者数 179名】	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度，進路等
	令和元年度修了時アンケート調査 【理工学府博士後期課程】	R 2. 1. 6 ～ 3. 31	大学院（博士後期）3年次 （13名） 【回答者数 12名】	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度，進路等

## (2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p>【結果概要】</p> <p>例年実施している「卒業時アンケート」及び「修了時アンケート」のほか、今年度から卒業年次以外の学部生に対して「学習ふりかえりアンケート」を実施した。</p>
	<p>【課題】</p> <p>学生を対象としたアンケートが増加傾向にあるため，学生の負担軽減と，回収率の向上が課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>アンケートの実施方法等について，教育改革推進室会議で検討を行う。</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>実習の充実度，実習期間の設定，実習校への割り振りの満足度，実習A（基礎実習）における経験をB実習（応用実習）へ活用できたかについて，おおむね8割5分以上の学生が肯定的な評価をしている。</p>
	<p>【課題】</p> <p>全体の割合に比べればわずかであるが，実習期間設定と実習校の割り振りについては満足度が低いとする学生がいる。 関連し，実習を受け入れる学校について，様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきていることも事実である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>実習期間等については，各実習校や教育委員会との調整が必要となるため，引き続き教育実習委員会において検討を続ける。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は，充実していましたか」との質問に対し，「とても充実」「充実」と回答した者は社会情報学科で96.7%，情報行動学科で（回答者2名）50.0%，情報社会科学科（回答者1名）で100%であった。研究科修了時アンケートでのそれは100%であった。 学部・研究科ともに，学生は学生生活に満足し，高く評価していることが伺われた。</p>

	<p><b>【課題】</b>          大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」「わからない」と答えた回答者が、社会情報学科で41.4%、情報行動学科で（回答者2名）100%、情報社会科学科（回答者1名）で0%であった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>          大学院説明会の案内等、学生への周知を検討する。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b>          チューター制度の評価が高かった。病院・施設での実習についてはやや不満とする学生もおり、見直しが必要である。卒業時におけるアウトカムの達成について、「十分」「おおむね十分」という回答が多かった。          国家試験受験説明会でアンケートを配付したため、高い回収率が得られた。</p> <p><b>【課題】</b>          卒業時に学生が身につけておくべき力であるアウトカムが達成されるカリキュラムであると判断されるが、病院・施設での実習を中心に継続的な見直しが必要である。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>          令和2年度から導入される新カリキュラムについて、カリキュラム検討委員会で検討を進めている。          病院・施設実習の指導者と連携し、実習の目的や方策について共通の理解を図っていく。</p>
医学部 保健学科	<p><b>【結果概要】</b>          平成29年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。</p> <p><b>【課題】</b>          保健学科としては「保健学科で得たものは何ですか。」との質問事項において、「論理的思考能力」「表現力・プレゼンテーション能力」に該当しないとの回答が多かったため、この能力をどのように伸ばしていくかが課題となっている。          また、保健学科の学習により身につけた項目を問う質問においては、「保健医療者に必要な知識と技術」「人間の尊厳を尊ぶ心」「将来にむけて、意欲を持って自らを向上させる力（自己開発力）」「チーム医療の担い手として、他者との相互理解や協働関係の構築ができる力」「医療が直面するいろいろな課題に対して、様々な立場・視点から柔軟に考え、判断し、対応するための基礎的な能力」は8割を超えていたため、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>          保健学科教育課程専門委員会で、ディプロマ・ポリシーとの関連や今後の改善策について検討し、経年変化を分析していく。</p>
医学系研究科	<p><b>【結果概要】</b>          教務システムのアンケート機能を活用し、アンケートを行った。回答率は48.2%であった。          「群馬大学大学院のカリキュラムを全体としてどう評価しますか。」との設問においては、肯定的な意見が92.6%となっており、昨年度の62.5%より</p>

	<p>り大幅に増加している。</p> <p><b>【課題】</b> 就職支援について、肯定的な意見が60%台と低い。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 修士課程の生命医科学専攻において就職支援が弱いことから、企業等の採用試験にあたって、学生からの推薦書の依頼があった場合には、推薦書を発行できるように体制を整えた。</p>
保健学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 教務システムのアンケート機能を活用し、アンケートを行った。回答率は68.5%であった。 学校全体での印象では「まあ印象に残っている」を選択する学生が多い一方で「教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重されて研究を進められた」「研究について、相談にのったり支援してくれる人がいた」「研究テーマに対する指導」「指導教員とのコミュニケーション」といった設問については「とても印象に残っている」「とても満足している」という回答への比率が特に高く、教員や支援者への評価が肯定的である。</p> <p><b>【課題】</b> 全体的に肯定的な意見が60%を占めている一方で、「群馬大学大学院に入学したとき、大学院の教育ポリシーについて知っていましたか。」の設問には肯定的な意見が8.1%であり、教育ポリシーの理解度が低いことがわかった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 大学院の教育ポリシーについてオリエンテーションや入学説明会で説明を行う。</p>
理工学部 理工学府	<p><b>【結果概要】</b> 回答率をあげるため実施期間を長くし、また掲示だけでなく学科の教員からも回答を促してもらった結果、回答率は向上した(学部)。学部、大学院ともに概ね肯定的な評価であった。</p> <p><b>【課題】</b> 特になし</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 特になし</p>

## 5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

### (1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・ 学生支援機構	該当なし		
教育学部 教育学研究科	教育実習A, C, D 運営協議会, 教育実習B運営協議会	R 1. 7. 24	教育実習前の意見交換 (教育委員会, 実習校)
	教育実習A, C, D 研究協議会	R 1. 11. 6	教育実習後の意見交換 (教育委員会, 実習校)
	教育実習B研究協議会	R 1. 12. 4	教育実習に関する意見交換 (教育委員会, 実習校)
	教職大学院連携協議会	R 1. 5. 29 R 2. 1. 22	教職大学院における 課題研究実習に関する意見交換 (教育委員会, 実習校)
社会情報学部 社会情報学研究科	該当なし		
医学部 医学科	カリキュラム 評価委員会	R 1. 5. 24	カリキュラム評価委員会
医学部 保健学科	スーパーバイザー会議	R 1. 7. 12	臨床実習の運営等についての協議 等
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	該当なし		
理工学部 理工学府	学外委員による 外部評価委員会	R 1. 10. 17 R 1. 12. 6	学外の委員(企業, 大学, 高専など)によるカリキュラム等に対する評価・意見交換(機械知能システム理工学科)
	JABEE 用外部評価 アンケート	随 時	JABEE 審査項目にある外部評価としてのアンケート調査(環境創生理工学科社会基盤・防災コース)

### (2) 意見等に基づく 改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
教育学部 教育学研究科	<b>【意見・指摘事項等】</b> 実習生を受け入れた際のことについて, 実習校から, 実習生の授業の進め方や生徒指導等について, それぞれ意見・感想が述べられた。
	<b>【具体的な改善事例】</b> 実習校からの意見を, 教育実習委員会及び専門職学位課程運営委員会において検討し, 実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。
医学部 医学科	<b>【意見・指摘事項等】</b> 外部委員からは下記の意見があがった。

	<p>1. 学生からのアンケート結果は、学生が大学に何を求めているかを知る材料であるので、大学を良くする目的である旨を学生に周知し、インセンティブを与え、実施方法を工夫することにより回答率を上げた方がよい。</p> <p>2. 医学科は医学教育分野別評価の認定を受けている点は評価できる。学生を育てるための科目として新設される「医系の人間学」の評価をどのように行うかが課題である。ルーブリック評価やポートフォリオ作成も重要になると考える。他の科目でも、医学科のアウトカムを意識して到達度を確認するための評価が重要である。</p> <p>3. 委員の所属する施設では、学内に年次報告をおこなっているので IR の実施内容を広報するのもよいのではないか。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b>  授業の評価方法について、ルーブリック評価等を含めて評価基準の見直しに取り組むこととなった。学生アンケートについては、回答率を高めるためにアンケートの実施方法を検討することになった。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p><b>【意見・指摘事項等】</b>  理学療法学専攻及び作業療法学専攻においては、実習済施設並びに実習予定施設の実習指導者から指導を受けるため、スーパーバイザー会議を実施した。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b>  令和2年度から理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が一部改正されるに伴い、理学療法学専攻及び作業療法学専攻において、更なる発展充実のためにカリキュラム見直しを検討した。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p><b>【意見・指摘事項等】</b>  (学外委員による外部評価委員会)  カリキュラムや講義内容に対して意見をいただき、CAD教育やFEM解析を活用する地場産業に即した人材育成について提案があった。  (JABEE用外部評価委アンケート)  専門能力と問題解決のデザイン能力の評価は高いが、コミュニケーション能力不足という指摘があった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  (学外委員による外部評価委員会)  改組後のカリキュラム設計の際の参考とし、継続的な教育改善に生かした。  (JABEE用外部評価委アンケート)  JABEEの「協働・チームワーク力」という評価項目の充実を図るべく、新設講義の「防災計画」において、「協働」を重視した講義内容の拡充、「環境創生理工学」や「学びのリテラシー(3)」における「協働・チームワーク力」を意識した講義内容の拡充をはかった。</p>

## 6. その他 特記事項

特になし

## 7. 根拠資料

(「授業評価のアンケート用紙, 集計結果」, 「学生との懇談会の配付資料・記録」, 「FD活動の資料」, 「意見調査票, 集計結果」等)

学部等	根拠資料
大学教育・ 学生支援機構	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度前期 授業評価 (学びのリテラシー1) 集計表</li> <li>2. 令和元年度後期 授業評価 (学びのリテラシー2) 集計表</li> <li>3. 令和元年度前期 授業評価 (情報) 集計表</li> <li>4. 令和元年度後期 授業評価 (情報) 集計表</li> <li>5. 令和元年度 学長と学生との懇談会 次第</li> <li>6. 平成30年度 群馬大学ベストティーチャー賞 授与式及び公開模擬授業 開催案内</li> <li>7. 第11回 全学FD講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内</li> <li>8. 学習ふりかえりアンケート(2019年度末実施) 集計結果</li> </ol>
教育学部 教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度前期・後期 授業評価アンケート集計結果 (学部全体) (修士全体) (専門職全体)</li> <li>2. 令和元年度 授業評価アンケートWEB画面</li> <li>3. 令和元年度 前期 授業改善報告書 様式</li> <li>4. 令和元年度 教育学部長と学生との懇談会 要望事項一覧</li> <li>5. 令和元年度 修士課程院生との懇談会 要望事項一覧</li> <li>6. 教員間相互授業研究Week について</li> <li>7. 令和元年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート集計結果</li> </ol>
社会情報学部 社会情報学研究科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2019年度年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (学部)</li> <li>2. 令和元年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (研究科)</li> <li>3. 学部長との懇談会 案内, 懇談会記録</li> <li>4. 研究科長との懇談会 案内, 懇談会記録</li> <li>5. 平成31年度ガイダンス等一覧</li> <li>6. 2019年度 学部卒業時アンケート 集計結果</li> <li>7. 2019年度 研究科修了時アンケート 集計結果</li> </ol>
医学部 医学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度 授業評価アンケート 用紙・集計結果</li> <li>2. 令和元年度学生との懇談会 配付資料・記録</li> <li>3. 令和元年度 FD活動 ポスター</li> <li>4. 令和元年度 医学科卒業時アンケート 用紙・集計結果</li> </ol>
医学部 保健学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度 保健学科前期授業評価アンケート 集計結果</li> <li>2. 令和元年度 保健学科後期授業評価アンケート 集計結果</li> <li>3. 令和元年度 第1回保健学科学友会との懇談会 質疑応答内容</li> <li>4. 令和元年度 第2回保健学科学友会との懇談会 質疑応答内容</li> <li>5. 令和元年度 第1回保健学教育FD【教育の「内部質保証」に向けて】出席状況</li> <li>6. 令和元年度 第2回保健学教育FD【ベストティーチャー賞受賞者による講演】出席状況</li> <li>7. 令和元年度 医学部保健学科 卒業予定者アンケート 集計結果</li> <li>8. 理学療法学専攻 令和1年度教育実習運営協議会会議 次第</li> <li>9. 作業療法学専攻 令和1年度教育実習運営協議会会議 次第</li> </ol>
医学系研究科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学系研究科授業評価アンケート(前期) 集計結果</li> <li>2. 医学系研究科授業評価アンケート(後期) 集計結果</li> <li>3. 医学系研究科FD 開催通知</li> <li>4. 平成30年度 群馬大学全学修了時アンケート調査 (医学系研究科)</li> </ol>

	<p>5. 令和元年度 群馬大学全学修了時アンケート調査 (医学系研究科)</p> <p>6. 推薦書 様式 (修士過程 生命医科学専攻)</p>
保健学研究科	<p>1. 令和元年度 保健学研究科博士前期課程 授業評価アンケート 集計結果</p> <p>2. 令和元年度 群馬大学全学修了時アンケート調査 (保健学研究科)</p>
理工学部 理工学府	<p>1. 2019年度理工学部授業改善のためのアンケート (前期・最終調査) 画面</p> <p>2. 「授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会」についての報告 (抜粋)</p> <p>3. 令和元年度 理工学府長と学生との懇談会 概要</p> <p>4. 教員会議 次第 (成績評価FD)</p> <p>5. アクティブラーニングFD 開催案内</p> <p>6. (FD)2019年度前期 理工学府・理工学部公開授業に関するアンケート 集計結果</p> <p>7. 令和元年度卒業時アンケート調査 (理工学部) 集計結果</p> <p>8. 令和元年度修了時アンケート調査 【理工学府博士前期 (修士) 課程】 集計結果</p> <p>9. 令和元年度修了時アンケート調査 【理工学府博士後期課程】 集計結果</p>

## 令和元年度 授業評価 実施状況一覧

	合計		内 訳				
	前 期		後 期		期		
	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	
教養教育科目	学びのリテラシー	75	1,524	25	848	50	676
	情報	12	803	8	694	4	109
	小 計	87	2,327	33	1,542	54	785
専門教育科目	教育学部	635	5,459	344	3,577	291	1,882
	社会情報学部	187	1,587	61	912	126	675
	医学部医学科	55	2,942	26	1,629	29	1,313
	医学部保健学科	271	6,078	149	3,688	122	2,390
	理工学部	420	11,531	197	7,473	223	4,058
小 計	1,568	27,597	777	17,279	791	10,318	
大 学 院	教育学研究科	113	226	50	153	63	73
	社会情報学研究科	26	34	16	23	10	11
	医学系研究科	59	110	26	51	33	59
	保健学研究科	3	35	3	35	—	—
	理工学府	165	669	99	575	66	94
小 計	366	1,074	194	837	172	237	
合 計	2,021 (1,921)	30,998 (29,872)	1,004 (943)	19,658 (17,340)	1,017 (978)	11,340 (12,532)	

※ ( ) 書きは、昨年度の実績。